

公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	ほこほこ		
○保護者評価実施期間	令和8年3月31日		～ 令和8年4月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和8年3月14日		～ 令和8年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月24日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能である強み、異年齢児との関わりの中でソーシャルスキルが身につきます。	幅広い年齢の児童と一緒に遊んだり活動する中で年長児から教えてもらうことで学んだり、年少児を思いやる気持ちや責任感が育つ取り組みを行っています。	子ども同士での対話を尊重し、必要な場面で職員が介入しサポートしながら対人関係のスキルを身につけていきます。
2	子ども一人ひとりの状態やペースに寄り添いながら支援を行えるよう努めています。	学校、幼稚園、家庭など環境の変化による情緒、体調など個々の状態やペースを共有し日々の支援を行っています。	子どもの変化や状態について保護者、職員間での情報共有に努めます。
3	日常の活動やイベントなど楽しく安心して活動できるよう制作、ゲーム、スポーツ、戸外遊び、季節の行事、クッキング、外出など様々な内容のプログラムを取り入れています。	土曜日や長期休暇を利用して普段できない経験をさせていただけるようイベントを計画しています。特に外出の際は安全に活動できるよう職員1人に対し子ども1～2人、必要な児童には1人に対し職員が2人サポートする等、十分な体制で対応できるよう努めています。	平常では難しい地域交流や、他の子どもとの交流がもてるような企画や取り組みも実施していきたいと考えます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流やペアレントトレーニングの機会を設けることができていません。	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能の事業所であり午前中から放課後までサービスを提供しているため、開催には人員増員が必要となり支援プログラムや交流の機会を設けることが難しい状況です。	営業時間内の実施となると職員の体制を整えることが必要と考えます。保護者のニーズを踏まえ検討したいと思います。
2	日々の様子を伝える手段が連絡帳のみとなっています。	送迎時は限られた時間のため最小限の伝達事項しかお伝えできていません。またSNSについても業務負担軽減の観点から発信が不足していることが要因と考えます。	発信の頻度を増やすよう努めます。
3	職員の入れ替わりによるスキルの差が生じています。	職員が入れ替わり十分な研修を行う前に支援にあたることもあり、職員によって経験やスキルの差が生じています。	直接支援にあたる前に研修やOJTによりスキルアップを行います。
4	事業所が2階にあり利用に制限があります。	療育室が2階ですがエレベーターが設置されていないため階段を上げられない児童の利用に制限（職員が抱っこできるまで）があります。	設置にはかなりの費用がいるため実現は難しくなっています。